



開校44年目

六中だより 11月号

〒352-0023 埼玉県新座市堀之内3-11-1

TEL 048-478-2764 FAX 048-482-0136

HP <http://www.c-niiza.ed.jp/j-dairoku>

全生徒数：676名



世界に羽ばたく人財育成
～ 美しく・温かく・常に前進 ～

校長 斉藤 直之

皆さんは、英語は得意ですか？と聞かれたら、何と答えるでしょうか。私は、得意とは言えません。だから、街中で外国の方に声をかけられると、緊張してしまいます。

先日、バス停でバスを待っている時の話です。すると、外国の方から話しかけられました。こちらも緊張からか、何を言っているのか、最初はさっぱりわかりませんでした。しかし、よく聞いてみると、このバスは何時に出発するのか、といった比較的簡単な英語だったので。答えは、何時何分ですので、今でしたら、小学校でも教えてもらえるレベルとも言えます。笑顔で挨拶を交わし、その場を後にしました。

さて、最初はなぜ、戸惑ったのでしょうか。やはり、そこには英語に対する私の苦手意識があったのかもしれません。その場を去った後に、やはり、今後はもっと英語が求められる時代になるのだろうと感じた次第です。

「英語が話せる日本人の育成」が叫ばれ、英語のカリキュラムは大きく変化してきました。

小学校に外国語活動が創設され、高学年に外国語の授業が誕生したのも時代の流れとも言えます。

そして、このような出来事があった後に、今年度実施された全国学力・学習状況調査の結果が、頭に浮かびました。

「聞く」「読む」「書く」の全国平均正答率は46.1%。「話す」は全員調査で

はありませんが、平均正答率は12.4%、60%を超える生徒が正答率0だったという記事です。当時、新聞で大きく報道されましたので、驚いた方も多くいるのではないのでしょうか。

英文を読んで、選択肢から選ぶ問題には対応できているが、「英文を読み、それに対する自分の考えを書く」問題でも課題が見られました。「書く」「話す」ともに、英語による表現力に課題があったとも言えます。

質問紙の結果を見てみると、「英語の勉強は好き、大切」と多くの生徒が理解しています。問題は、その必要性。必ずしも英語を使う職業に就かない生徒でも、今後の生活において、海外の取引先とのやりとりでは、メールやリモート会議を日常的に行われるようになるでしょう。そういったシチュエーションをイメージさせれば、授業へのモチベーションも上がり、英語の必要性にもっと気づくのではないのでしょうか。

英語は、どうせ使わない。このような考えは、もう古いものとして考え、英語を学問としてではなく、一つの技能として捉えることも大切なことでしょう。

グローバル社会で活躍する将来性豊かな中学生世代。街中で話しかけられたら、臆せず、シンプルな英語表現を。

難しい英単語でなくても、表現すれば相手に想いは通じます。

英語を学習する段階では、まずは苦手意識をもたないこと。学びは続きます。